

## 年金制度の経年的効果について

神戸大学 藤井隆雄

神戸大学大学院生 林 史明

神戸大学 入谷 純

給付と負担が定額部分と所得比例部分から成る賦課方式の年金制度において、給付の定額部分の増加を保険料負担の定額部分の増加によって財源調達する改編を想定する。この改編が (A) 資本蓄積、(B) 資源配分、(C) 所得分配に与える効果について二世代重複モデルを用いて考察する。

本稿では先行研究の多くで仮定される完全予見や合理的期待を採用しない。むしろ、来期の労働市場が今期に決定できるという簡明な経済環境によって、一時均衡が逐次的に進行するモデルを構築する。定常均衡のふるまいに関して (A) については資本蓄積が阻害されること、(B) についてはNegishi 的な社会厚生が減少すること、(C) については所得分配が平等化すること、を確立した。